

## 第1回脱炭素実行ビジョン策定専門家会議議事概要

### ■日時

令和4年8月26日（金）14:00～16:00

### ■場所

池田町能楽の里文化交流会館 2階大会議室

### ■出席者

#### (1)委員

富山国際大学教授 上坂委員                      福井工業大学教授 三寺委員  
福井県立大学准教授 中井委員                      (株)モリアゲ 代表取締役社長 長野委員  
福井県庁 岩井渉オブザーバー

#### (2)事務局

池田町役場 溝口副町長                      森川環境政策室長

### ■議事次第

1. 開会
2. 町長挨拶（代理：溝口副町長）
3. 委員紹介
4. 説明事項  
池田町の地方創生の取り組みについて  
地域脱炭素に向けた現状と対応の方向性
5. 質疑・意見交換
6. 閉会

### ■意見概要(資料の質疑応答は省略)

#### (1)委員会開催趣旨について

- ・池田町では、第2期の地方創生総合戦略を策定してまちづくりに取り組んでいる。4月に脱炭素宣言を行ったが、これが目指すのは「二酸化炭素排出抑制」だけではなく、地域の暮らし、エネルギーのあり方を見直し、地域を持続可能なものとするものであり、実際には地方創生と同じ。
- ・先生方の専門的知見をいただき、池田町の脱炭素の進め方、シナリオの方向性を見出して、地域住民のみなさんの理解を得て地域ぐるみでの行動を始めるためにこのビジョンを策定する。

#### (2)ビジョン全体・シナリオの考え方について

- ・ビジョンでの設定人口を2040年で2,000人を目指すとするのは、1学年20人学級を目指すという意味が含まれている。地域の持続性を確実にするために、学校の20人＝人口2,000人は重要で、これを第2期の地方創生戦略としているので、本シナリオにも取り込んだ。

- ・特に池田町は大きな面積を抱えながらもコンパクトなまちづくりを進めてきており、モデルになる力をもっている。公共交通や地域計画というものをさらに考えて、エコタウンとしての見せ方、表現を考えるべき。逆に、ここに住まいを設けて外に働きに出るような暮らし方も考えられるのではないか。こうした点も狙えるような政策も入れていければよいのでは。
- ・池田町としては森林吸収で CO2 排出は実質ゼロでも福井県全体としてみたときに、下流域（福井市）との関係は重要。そこの関係づくりに排出権のことも考える余地はありそう。

### (3)家庭での取り組み、住民行動について

#### ○家庭・運輸の重要性

- ・社会の変容を生み出すためには、これまでの知見を生かすこと、学生などの若い力を借りることも大切。また家庭・運輸部門での行動を広げるためには、家庭での取り組みやその成果、新たなライフスタイルをかみ砕いて「見せる」ことガイドブックのようなものをつくるのが大事。脱炭素実現に向けて、町民行動の変容は重要。特に池田町では、生活と運輸が大きい。よって、生活における暖房燃料である灯油（石油ストーブ等）と、ガソリンなど運輸（車社会）の問題がある。
- ・デンマークでは、SDGs の思想と行動が身につけていることに驚いた。年金の 80% で完全介護の施設に入れるというのは、社会の仕組みとして安心。そういった安心できる社会をつくるということも、重要ではないか。

#### ○行動変容に向けて

- ・また、太陽光パネルの普及をどのように考えるかは重要な論点。
- ・行動変容というものはすべて「カネ」というわけではなく、ソーシャルプレッシャーというものだったり、良心・価値観というものだったりする。そこは地域社会によっても、テーマによっても違うが、池田町では、その点を考慮する必要がある。
- ・金銭的インセンティブは、人々の利他性や良心を削ぐという負の効果もある。住民に何をしてほしいかを考えることで、仕掛けるべき工夫が少しずつ変わってくる。
- ・価格が高くて（再エネを）買うというような行動には、どのようなストーリーをどう見せるかの工夫が大事。行動変容を促すに当たって、住民にどのようなストーリーで設定された目標を共有し、お願いするのかを考える必要がある。おそらく、自家用車を使わずに公共交通を使うケースでは、金銭的なものが効果的かと思うが、それ以外のケースでは、ナラティブなアプローチが効果的なこともある。町民の性質や期待する行動により使い分ける必要がある。

- ・池田町には、福井県のモデルとして家庭部門での脱炭素運動に取り組んでいただきたい。そのうえで取り組みの可視化は重要。

#### (4)小水力発電の在り方

- ・小水力発電は100kW 1億円と言われる。水海では200kW弱で3億円。どうしても初期投資が高くなる。結果投資をするのが地域の一部企業ということになるが、水海の場合には合同会社という形でみんなが出資したこと、またその利益を地域創生に使うという理想的な形となっている。
- ・小水力について、直観的にはポテンシャルがあると思うが、実際に導入するとなると、例えば地盤が盤石であるか、流量があるか等の条件があり、丹念に調べる必要がある。また農業用水路は、河川よりも流量が安定しており土地改良区との関係をうまく構築しつつ進めていけば良いのではないかと。

#### (5)森林吸収について

##### ○森林資源活用は、マテリアル利用・カスケード利用

- ・池田町の森林活用において、C材の量を6割としているが、林野庁は2割として示している。池田町の実態として、6割の需要が「C材価格」（隣接市のバイオマス発電への販売）が「B材価格」よりも有利であるためこちらに流れているとしても、C材価格では山での再造林経費は捻出できず、発電から始まって考えた地域は苦勞している。建材等のマテリアル利用と一緒にカスケード利用として考えていかないと森林の持続性は担保されない。
- ・木をカスケードでどう使っていくかという視点から考え、最後の最後にエネルギー利用ということで利用可能量を考えるべき。熱利用だけの安い燃料材だけを考えてみると、林業従事者の給与は出せない。そういう視点から、利用可能量を算出する必要がある。

##### ○森林吸収という機能を生かした上下流連携

- ・森林吸収源が大きいとしても、森林資源は先代から引き継いできたものであり、それは孫世代の貯金（森林貯金）として次世代に送るとし、現世代のメリットとしては除外して考えるべきでは。また、池田町の吸収量が大きいとしても福井県全体で見ると楽観視はできない。人口の大半が福井市に集中している中、福井県のカーボンニュートラルの取組に池田町がどう貢献するのかという視点もあってもよい。例えば、森林吸収量について、カーボンクレジットとして他の市町村に売却すれば、池田町の収入にもなり、池田町の魅力を発信することにもつながる。
- ・池田町は福井市（？県全体の水源というのが一般的であれば「県」のままで構いません）の水源であり、流域連携という意味で、福井のために（もちろんお金

はもらうが) 池田町も山を守るべきという説明の仕方ができるし、関係人口を呼んでくるという意味で植樹に流域の方に参加してもらうというのものもある。

## (6)脱炭素ビジョンの進め方

### ○計画の評価見直しの重要性

- ・ 今後策定される脱炭素ビジョンについては、2040年までの19年として進捗状況に応じて適宜見直しとしているが、池田町では短い期間の中で多くのプロジェクトを成し遂げられているので特段の心配は不要と思うが、事業のやりっぱなしではなく、数年おきにも政策の評価を行っていくというのが極めて重要。

### ○地域主体でのビジョンを目指す

- ・ 森とつながる町づくりを考えていく上で、それぞれの町ごとに森との関わりはある。これは中央政府がこうあるべし、と決めるのではうまくいかない。これを池田町として、脱炭素ビジョンにまとめていかれるということなので、今後、更に議論を盛り上げていきたい。
- ・ 池田町はカーボンネガティブを達成できる町を目指し、住民の誇りとなることで、更に町が発展していくことを期待。いち早く達成し福井県のモデルと言わずに全国の自治体のモデルになることを目指してほしい。
- ・ 地域ビジョンを実践していく上で重要なことは、社会に不安がないこと。デンマークでは、年金の8割で国民全てが完全看護の高齢者施設に入れるという安心感があるから、脱炭素などにも取り組める部分もある。ちゃんと最後まで生きていける地区を池田町で作ってもらい日本に発信してもらえると嬉しい。こうしたことも踏まえ、魅力ある町を作っていくための区域施策編を策定してほしい。